

■小倉進平 言語学者。朝鮮総督府官僚となったことから研究を始め、朝鮮語学を確立した。

おぐらしんぺい

新体詩抄・1882= 仙台で、生まれる。

帝国憲法発布1889= 7歳：

大津事件・1891= 9歳：

日清戦争始・1894=12歳：

ロシア国産化・1900=18歳：

日比谷公園・1903=21歳：東京帝国大学文科大学言語学科に入学し、

日露戦争終・1905=23歳：

満鉄発足・1906=24歳：論文「平安朝の韻文」を書いて、卒業。大学院に進み、

上田万年の助手を務め、

伊藤博文暗殺1909=27歳：

韓国併合・1910=28歳：助手の任務を終え、

大逆事件判決1911=29歳：朝鮮総督府官僚となって、渡鮮すると、

明治天皇没・1912=30歳：早速済州島を訪れて調査するなど、朝鮮語の研究を始め、

大正政変・1913=31歳：朝鮮辞書審査委員会委員を命じられ、

第一次大戦始1914=32歳：委員会解散後も、中枢院の「朝鮮語辞典」編纂事業に関与しながら、

朝鮮全域を回って、方言の研究に努め、

本格政党内閣1918=36歳：

大暴落・1920=38歳：*「朝鮮語学史」、

原敬首相暗殺1921=39歳：この年からの総督府学務局の「諺文綴字法」改訂事業に関与、

護憲三派圧勝1924=42歳：「南部朝鮮の方言」。欧米留学に出発し、

円本時代始・1926=44歳：朝鮮に戻るとともに、京城帝国大学教授、

金融恐慌・1927=45歳：文学博士。

世界恐慌・1929=47歳：*「平安南北道の方言」「郷歌及び史読の研究」。

海軍軍縮条約1930=48歳：この年からの「諺文綴字法」再改訂事業に関与、

満州事変・1931=49歳：以後、急速に強制化進む日本語普及政策に反対するうち、

国際連盟脱退1933=51歳：母校東京帝国大学言語学科の主任教授となって帰国し、

芥川直木賞始1935=53歳：*「郷歌及び史読の研究」により、帝国学士院恩賜賞。

二二六事件・1936=54歳：

日中戦争始・1937=55歳：

大政翼賛会・1940=58歳：「増訂朝鮮語学史」、

日米開戦・1941=59歳：

創価学会検挙1943=61歳：*定年退職し、朝鮮総督府より朝鮮文化功労賞を受けて、

年金+総武装 1944=62歳：没した。
「朝鮮語方言の研究」、